

1. 会 議 名 令和7年度 第2回 印西市環境推進会議（市民会議）
2. 日 時 令和7年7月18日（金）9：30～11：30
3. 場 所 市役所 会議棟 204会議室
4. 出席委員：小山会長、白川副会長、岩井委員、片桐委員、久保蘭委員、富川委員
橋本委員、福井委員、村形委員、渡辺委員

事 務 局：富澤環境保全課長、増田保全係長、及川主任主事

5. 傍 聴 者 0名
6. 配布資料
 - ・会議次第
 - ・環境フェスタ展示パネル一覧
 - ・視察研修先について

（1）開会

（2）会長挨拶

（3）議事

- ・いんざい環境フェスタの報告について

議 長：6月7日に開催されました環境フェスタについて、参加された方の感想などを聞かせていただいて、来年につなげられる課題や問題点、よかった点などを言っていたきたい。

委 員：予想以上にたくさんの人たちが来てにぎわっていた。改めて環境というキーワードを再認識して、皆さんの真面目な姿を見て、改めて意識を引き締めて真剣に考えたいと思った。

委 員：環境フェスタの参加は初めてだったが、本当に予想以上に多くの人でにぎわっていた。スタンプラリーの効果だと思うが、各ブースを回っていて、説明すると興味を持って聞いてくれたので、やりがいがあったと思う。課題としては、テーマがいろいろ盛りだくさんの中に自分のやりたいことも盛り込ませていただいたのですが、スタンプを押す時間がなくなってしまうのもう説明はいいからスタンプだけ押してくださいと市の方からお叱りをいただいた。けれどもスタンプを押すことが目的ではなくて私たちは伝えるためにやっていると思うので、何かやりようを考えなくてはならないと思った。また、必ずお話をするときに、印西のこのような自然豊かな場所で遊びに行ったことはありますかと聞いたところ、大体10人に1人ぐらいしか週末市内で遊ぶということがないようで、もっともっと魅力を伝えていく余地があるのではないかと感じた。

議 長：ありがとうございました。はじめに事務局から報告を受けなくてはなりませんのでお願いします。

—いんざい環境フェスタについて事務局より説明—

議長：引き続き意見や感想をお願いします。

委員：今年は去年ほどではなかったが暑かった。皆さん説明される方が相当頑張っていて、本当にお疲れ様でした。感想から言うとトートバッグが早くなり過ぎたなという印象だった。この環境推進市民会議のブースで一番人気があるのがトートバッグである。もうひとつは、環境カレンダー。半年過ぎたカレンダーを皆持っていくのかなと思っていたが、予想外に皆さん持っていかれていた。カレンダーそのものというよりも環境のテーマを取り扱ったカレンダーという意味合いで非常に人気があったのでちょっと驚いた。これも早々となくなってしまったので、来年に向けてはもう少し部数を増やしていただけるとありがたい。

議長：ありがとうございます。環境フェスタのブースでアメリカザリガニのクイズをやりましたけれども、何か反応があったか。

委員：アメリカザリガニというのは子どもは非常に興味があるので、テーマとしてはいいと思う。特定外来生物に指定されているように増えると極めて困るし、駆除を継続的にやらなくてはならないと思っています。アメリカザリガニは子どもも大人も興味があると思うし、ずっとやった方がいいと思う。

議長：ありがとうございます。オオキンケイギクについてはいかがだったでしょうか。

委員：今回参加したのが 3 回目だったのですが、オオキンケイギクは初めてのテーマで、約 1 ヶ月かけて作ったのですが、なにかすっきりとしない問題になってしまって、未だにまだすっきりとしてないのですが法律から読むと、オオキンケイギクは採っていいことになっている。生きたまま移動してはならないとなっているが、生きたまま移動してはいけないのは、根っこと種である。地上部分だけ切って、持ち運ぶのは大丈夫である。でも、そのことを書いている行政は日本中で 2 つだけである。中国四国地方環境事務所と山口市役所。その 2 つは、根と種がついてなかったらとっても構いませんと書いてある。でも他の行政や地方環境事務所はそこには一切触れてない。そこが非常に悩むところで、とにかく生きたままの移動は駄目っていうのがどこの行政を見ても書いてあって、すっきりとしないところである。私は根がついてなければ、種がついてなければとっても構わないと言っていいのではないかと今でも思っている。

委員：私は午後からの参加だったので、皆さんがどのようにしているのかというのを見て、やらせていただいた。ほとんどはザリガニとオオキンケイギクのことを来場者の人に説明した。オオキンケイギクは違いをきちんとわかるように写真でアップしてくれていたのととてもよかった。国道 464 号にたくさん咲いているというのは皆さんご存じだったので、それはやはり持ってきてはいけないということを、伝えたのはよかったと思う。子ども連れの家族の方から、持ち帰ってもいいかという質問があった。昔の経験上は放していたという世代の人たちは、そうなのか

という感想が結構あって、知ってもらえたと思う。子どもたちはザリガニの方がとても興味深いので、最後まで飼うんだよ、命が尽きるまで飼ってねと言って、会場を出てもらえたと思う。

委員：私は毎年、別のブースで環境フェスタには出ているが、千葉県の温暖化防止推進センターから機材を借りて、個人のCO2がどれくらい出ているかというのをアンケートで、いくつかの質問をした。アンケートに答えれば自分の家からどれくらいCO2が出てくるかという統計的に数字が出てくる。トータルで13名の方の回答をいただいて、その結果を千葉県の推進センターに送った。1人に大体15分から20分ぐらい時間かかる。千葉県の目標は70名ということで、70名のうち、我々の印西市から13名が回答したというのは評価されている。

議長：スタンプだけ欲しいという人が多い現状の中で、今後どうしていくかということが課題だと思う。今回はどちらかのクイズに答えていただいて、興味のある人には説明ができればいいとしたが、どう割り切るかという問題が残ると思う。実際にはスタンプだけ欲しい人の方が多いと思う。今回はオオキンケイギクの写真などがあって惹きつけることができたと思う。そして印西の美しい自然の美しいポスターもあったのはよかったと思う。印西市の移り変わりが写真ではわかりにくかった。イラストか何か絵で描いて緑が減ったということがわかるような工夫をすればよかったと思った。アメリカザリガニの件では駆除しなければいけない、困るものだということは皆さんに分かってもらえたでしょうか。オオキンケイギクの件については、綺麗だからと花を切って壁に飾るのはいいということであるが、それを言うと植える人も増えるだろうし、やはり一般的には採ってはいけない、増やしてはいけないものだということをしっかり言っていいのではないかなと思う。

委員：何が正しいのかというのは伝えたほうがいいと思う。つまり法律上は採って飾るのはいけないということではない。しかし、採って飾らないでねと言いたい。嘘は言いたくないのでどう表現するかが難しい。

委員：私は温暖化防止印西という環境団体に属しており、そこで今回の環境フェスタをやったのですが、他のメンバーが小学校以下の子どもたちと、中学生以上の大人を対象に温暖化のアンケートを取っています。そのデータがあるので、もしよろしければ、市の方に報告したいなとも思いますがいかがでしょうか。

事務局：ありがとうございます。例えばこの市民会議の間でもご発表いただけると、大変助かると思っておりますが、いかがでしょうか。

委員：わかりました。

委員：私は孫と同等の年代の子どもを連れて全部回った。その時に温暖化防止のアンケートで、クイズみたいになっていた。私もわからない設問があったのでそれを今度教えてもらいたいと思った。何かしらこちらからクイズをしたりとかしないか

スタンプはもらえないというのが当たり前になっているので、私たちのところも、このままでいいのではないか。ただし、長すぎないようなクイズなどにしていくという方向性でいいのではないか思った。

委員：今後の改善事項として参考になればと思いお聞きする。資料1のパネルについては説明していないということですが、クイズ中心の方が短く伝わりやすいだろうという意図からか。

委員：クイズが一番に目についたもので、他のものは目に入らなかった。

委員：目に入らなかったという配置の問題であったということか。

委員：今までも市民会議ではこれを推してきたということがあったので、今回もこの説明でいいと思った。

委員：以前の市民会議で一応決まった内容ではあったが、十分な合意をもって、このパネル作成に至ってなかったという形になったという解釈でよろしいか。

議長：中心はクイズですが、やはり関心のある人にはしっかり私たちも伝えたいことは伝えたい。印西の移り変わりや身近な自然、カーボンニュートラルもあったので見てもらえる人には見てもらいたいという気持ちは伝わったのではないかと来年はこれを踏まえてもっと見てもらう。本当に見てもらいたい人は関心のない人に見てもらいたい。そのため、どういう工夫するかは来年度の課題ということではないでしょうか。では次にいってよろしいでしょうか。

・環境基本計画の推進に係る取り組みの検討について

ー環境基本計画の推進に係る取り組みの検討について事務局より説明ー

議長：今の事務局の説明について何か質問はあるか。3つのグループに分かれて、そのグループ内で環境基本計画の推進に市民に何ができるかということについて話し合っていくということである。

委員：去年もこの3つに分かれた。取組み2、3のグループとしての成果物としては環境カレンダーを作ってきた。取組み1の方としては、条例を作る下地づくりや調査など幅広く活動しておられたと思う。その反省や総括があればお聞きしたい。

議長：わかりました。その前に、各グループの担当の方から、何をやったかということについての報告をしていただけたらと思う。自然の力を生かそうグリーンインフラ大作戦について願います。

委員：グリーンインフラグループとしては、最終的には条例提案を目指そうとやってきた。条例の原案を作って、市長に提案するという事でこの2年、3年ぐらいの目標でやってきて、最終的に去年11月に市長と面会をして、名前はどうかかわ

からないがグリーンインフラ条例という案を提出したというのがグリーンインフラグループの去年の成果という形である。

議長：印西市はみどりと共生するまちというのが売りであるが、緑をもっと活用できないか。グリーンインフラというのは、コンクリートなどの建造物の灰色のインフラに対しての緑である。樹木や林や森、あるいは田んぼなど、そういう自然を使って、私たちの生活を豊かにしようという考え方である。そのために印西の現状を見ると開発がどんどん進んでいって、生き物が非常に少なくなっている。そのため緑は残っていても生き物は少ないという現状を何とかしたいということで、条例で谷津を守る、大地を守るということをできないかということで私たちやってきた。次に取り組み2のライフスタイルを見直そうサステイナブル大作戦と取り組み3を一緒にしたような形でカレンダーを作ったのですが、説明をお願いします。

委員：いろいろな議論をしてきて、最後は我々の活動を市民へお知らせするという意味合いも含めて環境カレンダー作ってはどうかという、ご提案をさせていただいた。やっていくうちにどんどん予算的にはほとんど出ないというようなことになってきて、それでも皆さんやったほうがいいのではないかとということで、最終的には前会長が、かなり力を注がれて、アウトプットすることができた。やってよかったかと、自分では思っている。

議長：CO2を減らそうストップ温暖化大作戦について、説明をお願いします。

委員：2年前に国がごみの問題で大改革ということで、全く新しいことを言い始めた。それは何かというと、今までリサイクルしていたプラスチックを、容器包装プラスチックという名前がついていて、それだけを回収して資源化するということがあったが、マイクロプラスチックという問題が発生して、このまま放っておくと大変なことになるので、法律を日本でも作った。日本では何をやるかということ、容器包装プラスチックの他に、同じ黄色い袋にその他の製品プラスチックを入れて出さないといけないう。それを今年の10月から始めるということで、環境関係にすごく影響を与える話なのですが、環境基本計画などどこにも印西市で謳われていないというのは、問題ではないかと私は感じている。

委員：お話を聞いた理解で言うと、この活動の成果とかゴールっていうのは、自分たちで設定して、市に直接その条例などについて働きかけるのもよし、何か自分たちでカレンダーのような成果物を作るのもよしで、何か設定されているわけではないということですね。

議長：私の方から意見を言わせていただくと、印西市はカーボンニュートラルという宣言をした。しっかり読み込んで市民にPRする、あるいは市民が何をできるかももう1回検討する必要があると思うので、取り組み3はとても大切だと思う。

委員：「自然の力を生かそう」について、今、高齢化で遊休地がどんどん雑草だらけに

なっているので、それをどうするのかというぐらいしか今のところ問題意識がない。具体的にCO2を減らそう、ストップ温暖化ということは、地に足がついた身近なことをやったほうが、腹に落ちると思う。

議長：私たちのグリーンインフラの関係の市長提案がその後どのような動きを見せているかということについて事務局から説明をお願いします。

事務局：グリーンインフラにつきましては、市としましても重点事業ということで進めていこうとしているところですが、現時点では、市長副市長含めまして、グリーンインフラに関する全体像や体制をどうするか、今後のスケジュールをどうするかということがまだ検討段階なので、具体的な話には至ってない状況である。

・視察研修について

―視察研修について事務局より説明―

事務局：現時点で委員の方からいくつかご提案をいただいている。吉田地区で建設中のグリーンセンターについては、現段階では視察の受け入れは難しいとの回答をいただいている。その他の提案はコスモスパレットの見学、ナガエツルノゲイトウの現状視認、我孫子市の谷津ミュージアムの見学である。

委員：コスモスパレットという新しい箱物ができて、1度も行ったことがないので、どのようなものかと思って提案した。もう1つのナガエツルノゲイトウは、全国的に農業被害が出てるいということで取り上げられているのですが、実は私はほとんど見たことがない。非常にひどいところがあればこのような状態だということを知っていただけるとありがたい。

委員：私が提案した、我孫子の谷津ミュージアムというのは、我孫子市がやっている事業である。現地を見るのは非常に大切なのですが、その市がどうして積極的に取り組んでいるのかというのを、ぜひ知りたいと思っている。

委員：前もって言ってなかったが、私も行きたいところがある。私は去年母を介護したので、紙おむつ問題ということにとっても興味関心ある。紙おむつをリサイクルしている工場がどこかにないかなと思い昨日検索したところ、松戸に株式会社サムズっていうところがあったので、ぜひそこに行きたいなって思っている。同じ松戸なのでついでに防災センターもあるので、2ヶ所行ったらどうかと思った。

委員：私の希望は竹中工務店の調べの森である。理由としては、国交省が新たに作った優良緑地確保計画認定制度の第1号の中に、この市内の竹中工務店の調べの森というのが入っている。グリーンインフラの優良事例として知られているので、ぜひ見に行きたい。

委員：過去の視察先の一覧に手賀沼船上視察というものがあるのですが、印旛沼の船上

視察があってもいいのではないか。もう1つは、草深の森。実際に詳しい人がついて説明を受けながら回るというのも1度ぐらいあってもいいのではないかと思う。

議長：この話を今からグループに分かれて、今年何をするかっていうことを決めて、その視察研修の候補を出すということで進めましょう。

委員：グリーンインフラのチームは我孫子市の谷津ミュージアムを視察対象として候補とする。理由としては、視察に行くことで市民としてどのような動きができるか、行政にどういったことを求めていくのかという具体的な事例が見えてきそうなので、今後の活動に繋がっていくだろうということで、こちらを選定した。

委員：こちらのグループでは視察候補先として、松戸の紙おむつリサイクル、それから防災センターを挙げる。メインは紙おむつのリサイクルの現状を我々としても知りたい。もう1つは、竹中工務店の調べの森である。この2点を挙げさせていた。

議長：候補が分かれてしまったので今すぐ結論を出すのは難しい。事務局のほうでグリーンインフラの谷津の関係と、松戸の方を当たってもらって、やりやすいところに最終的に決めるということでしょうか。

(4) その他

委員：お聞きしたいのは、今ニュータウンで大きな問題である例のデータセンターについてである。市の方に、ルールづくりをすると聞いているが、その進捗等を含めてお聞きしたい。

事務局：現在私ども環境保全課で把握しているのは、市のホームページに皆様からいただいたご意見をまとめて掲載しているというところは確認できているが、その後、どういった検討がされているかというのは申し訳ないが把握できていない。

委員：データセンターの許可を出すのは県になるのか。

事務局：市としては開発行為については開発事業指導要綱で開発に係る手続きをして関わっている。建築物の確認申請は行政が担うことも民間が担うこともある。

委員：県ではCASBEEによる環境性能評価は義務付けていないのか。ある程度大きい建物は大きな都市ではCASBEEによる環境性能評価を提出しなければならない。提出したものは公表されることになっていると思うのだが、私もわからないので聞いているのだが、そういうことになっているか。

事務局：環境保全課にCASBEEの情報が入ってきているのを確認したことがないので把握していない。

議長：データセンターについては皆さん関心の高い話だと思うので、次回どういった状況なのかということをご説明していただきたい。

事務局：こちらにもデータセンターの情報が来っていないので詳しいことをどこまでお伝えできるか、また、先々のまちづくりの方針について私たちが答えるのは難しい。

しかし皆さんの関心の高い話だと思うので担当部局に聞いて、次回説明できればと思う。

委員：しかし、悠長なことを言っていたら、どんどんデータセンターができて、我々が酷い目に遭うというのが実態じゃないかと思う。

議長：今おっしゃったことは多分ほとんどの市民が思っていることだと思うので、市として何も言えないのではなく、何か対応策ができるのか、あるいは法律上もうやることはできないのか、その辺のことも含めて、次回お願いしたい。

(5) 閉会

以上

令和7年度第2回印西市環境推進会議（市民会議）の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

令和7年8月13日

印西市環境推進会議（市民会議） 委員 片桐 顕二

印西市環境推進会議（市民会議） 委員 久保蘭 彩子